同窓会報

発行所
三重県鳥羽市池上町1の1
鳥羽商船高等専門学校内
鳥羽商船同窓会
電話 (05992) 5—3137
郵便番号 517
製作
神戸市生田区海岸通3(海岸ビル3階)
海交社
電話 (078) 331—2481～3番

青少年を「青い海」で育てよう

会長　西島好夫

世界各国の中で、日本とメキシコの青少年の体力が一番劣っていると云うことが、先年メキシコでオリンピック開催のとき統計的に発表されました。

今日、わが国の経済が高度に成長し、食糧事情も充分豊富な現状で、まさに不可思議なことです。

体力の低下に加えて、精神力もまた安定していない状態に鑑み、次代を担う青少年に対する適切なる施策の必要に迫られていることは当然のことです。

財団法人　日本船舶振興会では、予てから青少年育成のための、いろいろな事業を行い、国家の施策に協力して来ましたが、このたび更にB・Gプランというものを計画中であります。

BはBlue Sea.　GはGreen Land　を意味し青い海と緑の陸に青少年の研修施設を造ろうというもので、その規模は二十年間に二、〇〇〇億円の事業費を投入しようとしております。

公害問題や教育正常化問題のやかましい折柄恵まれた自然環境の中で新しい日本を背負って立つ心身共に健全な国民つくりをしようとするものです。

この企画の中でのBプランは二万トン級帆船型機船五隻を建造し、これに優秀な施設をなし青少年をして世界の海を航海しつつ研修し、各国との親善に寄与せしめんとするもので、聞いただけでも胸のすくようなことです。

そのほか青年クラブハウスを全国各地に建設するなどプランの中にありますが、とりあえず真白い船体の「太陽の船」が七つの海に羽ばたくことの一日も早からんことを念願しています。

私はこのB・Gプランの財源を生む競艇関係法人の役員の一人として微力を奉仕しておりますので、各位のご指導ご協力を切にお願いを申し上げます。

本部だより

昭和四七年度総会

本年度の総会は母校の校舎竣工記念式並びに祝賀会を兼ねることになりましたので当日は来賓・父兄その他で混雑する上に時間的な関係もありますので総会に付議する事項は印刷物を配布して了承を願いました。左記はその全文でありますので御了解下さい。

〔記〕

本日は、御繁忙中にもかかわらず多数御参集下さいまして有難うございます。総会は例年六月に開催することにしておりますが、今回は母校の竣工記念式典が盛大に催されますので、できるだけ多数の同窓に出席していただいて、学校の施設・設備・内容の充実振りを目のあたりに見て、われわれの学んだ昔のことなど振りかえり、益々母校愛の精神を燃えたたせていただきたく考えまして記念式典に兼ねて同窓会総会を開くことにいたしました。

思えば苦難の多い過去九十年でありました。財政の上で一時閉鎖の止むなきに至ったこともありましたが、校祖近藤翁の憂国の精神は厳然として輝き、校門横の記念碑の中からわれら海洋に志を立てた者を激励して下さいました。

今日高専校の一つとして不動の地位におかれることになったのも翁の精神を体して生き抜き、海運界のために尽してきた同窓の力によるところが多かったと思いますこの充実した施設の中で教育を受ける後輩は実に幸福であると思いますっこれから巣立ってくる彼等を善導して、立派な社会人に仕立て上げるのはわれわれ先輩の役目であり、母校愛というものでありましょう。

今年は創立九十一年目にあたり今日までの卒業生は三千名をこえておりますが、大部分が海上勤務その他の関係で本日出席申込みをされた約百三十名のうち九十六名が出席して下さいました。

〔出席者名〕

N科

石垣留由、斉藤常三郎、福永芳雄、高山弥三郎、家里琢夫、山崎嘉市、竹内作夫、坂口政次郎、小池忠平、高橋武衛門、加藤重三郎前山寅三郎、広瀬義節、市川義雄、前葉弘文、鎌田藤吉、林寿市堀出政三、岡崎武義、中村栄三、中山正一、深津薫、谷口輝治、関口展生、浦田楠雄、奥田邦壮、竹内清磨、渡辺豊、神谷義康、大沢松一、和田春生、時岡信一、三宅宮雄、末崎弘、西川慶堂、中西勧浜畑勇、山本太郎、浅野和昭、羽根田勉、古妻秀夫、落合弘明、沖田彬、竹内茂七、吉川敬三、下川英之、松本暢生、藤原隆久、中沢昌信、中久木公彦（母代）、丹羽幸彦、中野正義、宇山昇、神宮信三

E科

上山貞男、沢田定一、富永清、矢田稔、谷村彬、中村義夫、別府正、上村文三郎、田代金吾、谷口英雄、井上豊治、岩並義雄、富岡巳義、田宮信夫、中頭武、西島好夫、堤好造、小田英三、藤原圭二加藤清、小坂仁、駒田秀男、船木照生、楠木亀之助、山林規矩蔵、秋山末雄、山本徳男、北岡万二、水谷剛、豊永光司、谷水長生、上野和泉、上野久滋、石原久治、菅恵治、佐川徹、堀三矢之助、斉藤隆、上野紀佳、松本昭治、小川雅弘、大西正紹

例年の総会では議案提出審議の上御承認を得たわけですが、本日は式典参加の来賓・父兄が多数御一緒ですので、その機会が持たれるか否か分りませんので、会務会計報告や御承認を得たい事項を前以って用意しておきましたので別記ご覧の上御不審の点があれば御申聞かせ下さい。

46年度会務報告

4月　日　前校長小谷氏退職に付き記念品代を贈りました。

6月20日　母校談話室で総会を開催、参加者六五名でした。

10月4日　会報一九七一年号を二六〇〇部作成し卒業生に二〇一〇通残りを学校職員と学生に配布しました。

10月8日　京浜支部総会に本部より谷口が参加しました（校長臨席）

11月9日　中退者川田年秋氏より特別会員入会の申し込みがありました。

11月15日　伊勢志摩支部総会に会長、副会長が参加しました。落合先生が、科学技術庁より南米に派遣されることになったので、餞別を贈って激励しました。

11月20日　四日市支部総会に本部より谷口が参加しました（校長臨席）

2月5日　名古屋支部総会に、本部より谷口と落合が参加しました。（校長臨席）

2月14日　鳥羽船員保健寮に田中英明氏作の額を寄付しました。

3月25日　会長西島氏が伊勢市長選に出馬されたので、四日市と伊勢志摩支部二五名で激励会を催し本部より陣中見舞を贈りました。

3月30日　中退者下川英之氏より特別会員入会の申込みがありました。

3月末日　元校長村野氏が定年退職されたので、記念品代を贈りました。

◎特別会員入会の申込みがあった川田・下川両氏は本部理事会で了承しましたから御承認願います。

46年度会計報告

別添の通りですから御承認願います。（次頁掲載）

本年度事業計画

一、昨年の総会で母校竣工記念式典の際、三〇万円を寄付することを御承認得たわけですが、同窓会総会を兼ねることになったので一〇〇名以上の接待費をこの中で負担することは不可能なので、学校側の依頼により六〇万円を追加出資することに致しましたから事後承諾をお願いたします。

一、会報一九七二年号は九月発行の予定。

昭和46年度一般会計決算

(昭和46.4.1より 昭和47.3.31まで)

摘要	収入	支出	残高
繰越金			1,489,546
入会金（1名）	500		
会費（460名）	1,328,500		
名簿売上代（81名）	40,500		
寄付金 竹内30,000 横田10,000 松浦5,000 藤原5,000 河合1,000 西部3,000 金久5,000	59,000		
預金利息	31,179		
ネクタイピン売上代6個	10,200		
会報印刷及び発送費 2,600		259,677	
一般印刷費		44,850	
通信費		14,050	
寄付金 高専東海大会200,000 文化祭10,000 横浜学生寮33,000 船員保健寮30,175 サッカー部10,000		283,175	
総会費・懇親会補助		46,579	
郵便振替料		17,510	
役員旅費		84,400	
謝礼		6,000	
慶弔費 小谷校長餞別30,000 竹内陣中見舞30,000 谷村見舞5,000 落合南米行餞別100,000 江崎香奠5,205 村野元校長餞別30,000 西島陣中見舞30,000 弔電100		230,305	
事務用品		550	
事務手当		264,000	
雑費		16,100	
合計	1,469,879	1,267,196	1,692,229

基金の部決算 (47.3.31)

摘要	収入	支出	残高
繰越金			1,973,546
預金利息	91,704		
合計	91,704	0	2,065,250

財産目録 (47.3.31)

項目	金高	内訳	金高
一般会計	1,692,229	郵便振替	20,798
基金	2,065,250	貸付信託(安田)	1,170,000
		金銭信託(〃)	380,726
		定期預金(相互)	1,044,288
		普通預金(〃)	819,898
		現品(ネクタイピン)	280,000
		現金	41,769
	3,757,479		3,757,479

校舎竣工記念式典並びに祝賀会

五月十二日午前十時より母校体育館で記念式が行なわれました。当日は来賓・父兄・卒業生が各々約百名それに学校職員・学生を合わせて五百名以上が体育館に一杯に集って厳粛裡に行なわれましたまず校長の挨拶に始まり工事概要の説明があってから文相代理・小山全船協会長・鳥羽市長・西島同窓会長等の祝辞がありました。最後に伊勢市豊鶴連のねえさんたちによる名物伊勢音頭の披露があってなごやかな雰囲気を添えてくれました。

式次第

一、開式の辞
一、君が代斉唱
一、校長式辞
一、工事経過報告
一、文部大臣祝辞
一、来賓祝辞
一、祝電披露
一、感謝状贈呈
一、校歌斉唱
一、閉式の辞

校長式辞

明治十四年、近藤真琴翁によって攻玉社分校として創基されました鳥羽商船高等専門学校はその発展過程において私立、町立、県立国立と幾変遷して昭和四十二年高専に昇格し、すでにその創基から九十一年を閲し、今日に至っております。高専昇格後文部省、海運界、また本日御出席の小山全日本船舶職員協会々長の御尽力により施設、設備も着々と充実し、御覧のように立派な校舎が整いましたしかしまだ図書館も本年建築の予定ですし、環境整備もその途中でありますが、一応竣工の記念式をあげる次第であります。

ここに日頃御後援をいただきました関係各位ならびに同窓生、学生の父兄、旧職員をお招きし、本校教職員、学生とともに御祝の記念式をあげられますことは私の最も光栄とするところであります。

商船高専は将来有望な船舶職員になるに必要な能力を育成することを目的としており、その目標としては技術革新の時代に対応し得る知識と、これの裏付けとなる身についた技術を学生にもたらしめることにあります。そのため船舶の管理、運航、保守などに関してすぐれた能力を育成していくことが必要となります。

一方すでに十年の歴史を経た工業高専においても曲り角にきており、最近の新聞紙上でも高専生の悩みがのせられています。その悩みというのは一般教科が専門教科に比べて足りないので問題意識のないまま高度の専門知識を教えられるから興味がわかず、効率がわるい、基礎の貧弱な人間ができて将来伸び悩むのでないか、などということ、友人関係、教官との接触も初め期待したようでなかったことに対する不満など、特に非常勤講師の多いことも教官と学生と

の対話をはばんでいるなどという不満がのべられているのであります。

本校学生は全国から志を立てて笈を負って入学し、全員寮生活を行なっているため、とかく家庭生活の愛情にかけ、また他の高専生と同じような悩みのため、無気力となり、道をはずすものが出て参ります。

本校の高等学校時代の校長の村野先生、高専初代の校長小谷先生の御尽力により立派な学園ができ上ったのですが、昨年着任いたしました私は今後学内の教育の整備充実、特に精神的内面充実に力を尽したいと考えております。

その第一とし、教職員にお願いして愛情をもって教育に当っていただきたいと申しています。教育において愛情ほど大切なものはないのでありまして、これが欠ければ他の如何なる施策も効果をあげ得ないのであります。しかしこの愛情は甘やかすという意味でなく、時には慈悲の鞭をも加えなければならない時もあることはもちろんであります。

もう一つ教官、学生が従来も研究、実験に使用していました学生実験室に備えられないような大型実験設備を備えた教官、学生共用の基礎実験センターの設置を文部省にお願いし、教官学生の研究意欲を発揮していただき、今後教官と学生とのより多くの機会における接触を通じて相互信頼を強化し今後の技術革新の後を追うのでなく、迎えうつ態勢をつくってゆきたいと存じています。

本日ここに竣工記念式を行なうに当りまして御臨席いただきました皆様に厚く御礼申しあげますとともに、今後とも倍旧の御後援、御鞭撻をお願い申しあげまして私の式辞といたします。

文部大臣祝辞

本日ここに鳥羽商船高等専門学校校舎等竣工記念式が挙行されるにあたり一言ごあいさつを申し述べます。

本校は、わが国における船舶技術の発展に対応し得る優秀な船舶職員を養成する高等教育機関として、昭和四十二年度に鳥羽商船高等学校を母校として発足したものであります。

本校の発足当初は、施設設備等必ずしも十分でなく何かと不便も多かったことと存じます。以来文部省といたしましても、施設設備の整備充実に鋭意努力してまいりましたが、その間学校当局ならびに三重県鳥羽市をはじめとする地元関係各位には、なみなみならぬご努力ご協力を賜わりました。

本日の記念式にあたり皆様方のお骨折りと、ご熱意に対し深く敬意を表し、かつ衷心より厚くお礼申し上げます。

新緑の校舎学寮等の施設は、設計施工ともすぐれたものでありますので、本校の教育研究活動に多大の貢献をするものと確信しております。

今日、わが国の海運界の発展はめざましいものがあり、その推進力となる優秀な船舶職員の育成に対し、国家社会の期待するところは、極めて大きいものがあります教職員各位ならびに学生諸君は、本日を契機としてさらに決意を新たにし、このすぐれた新しい施設を十分に活用して、教育研究の成果をあげ、本校に課せられた使命を達成し、国家社会の期待にこたえられるよう希望してお祝いの言葉といたします。

昭阪四十七年五月十二日

文部大臣　高見三郎

同窓会長祝辞

朝熊山のみどり弥々深く、錦ケ浦に打よせる小波も金色に輝く今日の佳き日、校舎竣工記念式典が挙行されるに当り、母校同窓会を代表してお祝のご挨拶を申しあげることは、この上もなき光栄と存じます。

想いますに、母校鳥羽商船学校は、遠く明治十四年近藤真琴先生が創立せられ星霜満九十年の長きにわたり、斯界教育施設としてはわが国最古のものとして、香りも高き伝統を守りつつ輝かしい今日の歴史を築き上げるに至りました

学校歴の沿革を辿って見ますに私立から町立へ更に県立から国立と如何にも順風に帆を上げての発展と見えますが、私立当時一時閉鎖県立時代に海運界不況の際、まさに廃校の憂き目を見ようとしたことなど幾度か苦難の荒波にもまれながら、よくもたえてきたものと当時の関係者の目を潤ませるが如き物語もございます。

九十年の間に母校を卒業した同窓は実に三千二百名を超え、明治、大正、昭和と我国海運界の発展躍進に挺身貢献し、殊に太平洋戦争に際しては二百数十名の尊い生命を水漬く屍として国に殉じておられるのであります。

また乗船の不幸にして遭難するに及んでは、運命をその船と共にせられた同窓も数多くございました。学校創立以来物故された関係教職員、同窓会員のみ魂と共に生前の功績を讃えご冥福を祈る碑が近藤翁の顕彰碑と並んで校門脇に建てられているのも情篤き伝統を誇る表徴の一端として本校の歴史に華を添えておりますことは、まことに心あたたまる限りです。

校祖近藤先生がすでに明治の始めにわが海運界に対する先見の明には、今日にして驚嘆の外なく、母校の創設もその卓識の一つの重なるものとして、追憶憧仰措くあたわぬものがあります。この近藤翁のご遺志は今さん然と輝き母校は国家経営となり、新に高等専門学校に昇格するや数年ならずして施設の内容は隔世の姿と相成りました。

広域な校地の整備は始まり校舎体育館、実習工場、艇庫、武道館の新築、水泳プール、テニスコートなどの屋外施設の完備、寄宿舎の環境整備も整い更に図書館その他の将来計画の実現も近しとのこと、急速に校内外の面目を一新されたことに全く驚くの外ございません。

この素晴しい母校の施設が、これから先海上に雄飛せんとする若人たちを育くむ為に、最高度に運営されるには校長先生を筆頭に学校教職員のまごころこもる尽力に大きく期待をかけさせて頂きますので何卒よろしくお願い申し上げます。

在校中の学生諸君も、澄みきった大空を仰いで、青い海に面しみどりの丘にそびえ建つ近代的豪華なこの学び舎に将来を期して人格の陶冶と技術の修得に心はずませて攻玉の訓えを身につける幸せをよくかみしめて、本日ここに厳粛にして盛大に挙げられる式典を感謝の裡によく理解し心を新しく一層のご精進をなさいますことを切に願うものであります。

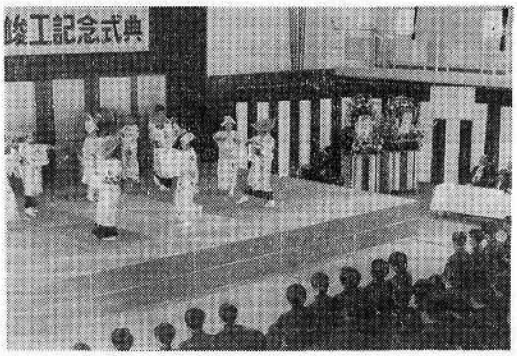
本日お芽出たいこの式典に私ども同窓が沢山ご招待を頂きましたが久方振りになつかしの校門をくぐるや、忽ち母校の晴れ姿の偉観に目を見晴り、校内施設を拝見し、その見事なのにいよいよ驚嘆いたしました。改めて今日まで工事を担当せられた関係各位のご尽力に対し深く敬意を表するものであります。また、ご列席の来賓各位が平素本校並に卒業者に寄せられるご好意に対しましても恵心よりお礼を申し上げます。

最後に母校の弥々のご発展と関係の皆様方の御多幸を祈念し粗辞を以而祝辞といたします。

昭和四十七年五月十二日

鳥羽商船同窓会長　西島好夫

式典終了後三々五々校内を巡視されたのちバスで鳥羽小浦園へ会場を移動し盛大な祝賀宴が催されました。御出席の同窓はなつかしい懐旧談に花を咲かせ母校の発展振りに満足して午後四時頃それぞれ散会いたしました。誌上に式典や祝賀宴の写真を掲載いたしましたからご覧下さい。



＜受　彰　者＞

昨年九月以後に受彰された同窓は次のとおり。

○　叙位叙勲

M42N水谷正夫　従七位勲六等

M43N川原正松　勲四等瑞宝章

○　大臣表彰

永年勤続　丸山茂、納富忠男

○海運局長表彰

・海事功労　高橋武衛門

・永年勤続　富島唯一、岩波義雄、大鳥居健次、寺田実生、梶原了

地方便り

函館

北海道の玄関口函館には鳥羽の同窓生が多数在籍しております。

殆んどが日本国有鉄道の青函航路の従事員でございます。夏季ともなると、全国から涼を求めて、来道往復する旅客が連絡船を利用されております。

我々は正確、安全、迅速をモットーに日夜業務に頑張っております。

長い、そして、きびしい冬から解放され、一度に百花咲き誇る春を終え、夏ともなれば観光の旅客で非常な賑いを呈しておる現状です。

同窓生も同一箇所に勤務している人が多いのでさぞかし何時でも集会して盛大であろうと思われるでしょうが、さにあらず、なんとなれば、連絡船に勤務する人が多いので、なかなか全員集合は至難です。

しかし時には集合して先輩、後輩ともに非常にくつろいで在校当時の思い出を語っておりますが、何回となく顔を合わせていると、誰々の話は何だ位は皆承知しているので、繰返しの連続です。

それでも皆あきもせず聞上手きと申しましょうか和やかなムードで語り合っております。そして話のつきる頃は、アルコールのメートルも相当あがって参りますと歴代幹事心得たもので最後に校歌合唱しそして散会となっております突然の同窓生が来客となると大体年代の近い人が集合して会食をやっております。

同窓の皆様も連絡船に乗船の際は、乗組員に尋ねていただければ誰かが乗船しているでしょう。また連絡方法も教えてくれるでしょう是非声を掛けて下さい。お待ちしております。　永谷　茂

東京浜

（事前準備）

今年も京浜錦浦会を開くときがやってきた。九月のある日、山下新日本汽船の久保さんより十月に開催予定の京浜錦浦会開催のことで打合せを行なうから九月九日午後六時に東京駅の南口駅の食堂に集まってくれという電話があった

当日、定刻までに所定の場所に行く。中村副会長、江崎、筒井、久保、辻、浅野と東京在京理事全員出席す。

早速、京浜錦浦会の開催についての話に入った。今年は母校創立九〇周年の年にも当るので、例年より内容のある会にしようということをきめた。

日時は、十月八日の六時半、場所は新宿の今佐が二年続いたが、横浜方面の人が遠すぎるという意見が出ていたため、東京、横浜どちらの在住者にも比較的足場のよい場所ということで、品川付近あるいは、東横沿線ではということで話をつめて行き、最高六七名の実績のある東横沿線多摩川園前の松籟荘で三年ぶりに開くことを決めた。

招待者は経費の点もあるので、母校々長、旧教官、谷口副会長程度にした。

会費は一人二、五〇〇円かかるところを二、〇〇〇円だけもらい不足分は同窓の有力者から寄付してもらい、賄なうこととし、筒井さんが中心となって有力者に交渉してくれることになった。

京浜地区には、動静のはっきりしていない人も入れて、同窓生は約二五〇名ぐらい在住しているといわれている。

ここ二～三年来集る人が下降線をたどっているため、若い人にも動いてもらって今回は六〇名～七〇名程度は集まるように努力することを申し合せて散会した。

翌日、早速電話で小山全船協会長、和田衆議院議員、母校々長に都合等も聞き、出席ＯＫを得たので案内状の文案を作成し、辻さんの所へ送り、出入の業者に依頼して印刷してもらうことにした。

案内状（往復はがき）の印刷ができてきたので、九月二十一日午後六時までに山下新日本汽船の本社に行き、久保、辻、小生の三名で手分けして名簿に基づき約二時間ばかりを費して宛名を書く。

名簿が正確でないため、通知もれになってしまう人もいるかも知れないが、電話を活用することで大体浸透するのではないか、多少のもれは仕方ないということになった。

京浜地区の場合は、人数が多く名簿を整備したり案内状を書くのは一人では無理である。専任者がいるわけではなくこれすべて奉仕の気持でやっているわけであるから、案内状が来ないからと文句をいわれても困るわけである。

逆に案内状を送っても返事をくれない人が七〇～八〇名もある。欠席の場合でも返事ぐらい出してほしいものである。

帰途、久保さんが自腹をきって夕食をおごってくれたが、その折京浜地区には、二〇代、三〇代の人が相当いるわけだから、いつまでも我々四〇代の人間にやらせないで、そろそろ手伝う人があらわれてくれないかなあという話が出た。

案内状

拝啓　秋もようやく深まってまいりました。同窓各位には益々ご上健でご活躍の御事とお慶び申し上げます。

さて、ご承知の通り母校が創立されて、本年は丁度九〇周年に当ります。

例年のことですが本年も同窓会京浜支部の総会並びに京浜錦浦会を左記により開催致したく万障お繰り合せの上ぜひご出席下さるようご案内申し上げます。

なお、この会場は東京、横浜におられる方双方の便宜を考えて選定しました。また、母校から谷川校長等も見えることになっております。クラス会も同時に開くようなお気持ちでお互いにさそいあってできるだけ沢山の方がご出席下さるように期待しております。

昭和四十六年九月

記

一、日時十月八日（金）午後六時半

一、場所　松籟荘

一、会費　金二、〇〇〇円（当日ご持参下さい）

京浜錦浦会　幹事一同

いっぽう、寄付の方は大体見込みがついたと筒井さんより連絡があり、その一部として十月六日勤務先の近くにいる久保商店の社長の所へ行って、相当額をいただいてくる。

この人は、中退の人であるが、卒業していれば、昭和十一年航卒ということになる。大体、学校を比較的良い成績で卒業した人より中退とかスレスレで卒業した人の方が同窓会に協力してくれる。また、誠意もあるように思う。

その後、中村副会長からの中間報告では、返事の戻ってくる具合は、例年より好調のようだ。出席者は五〇～六〇名程度ではないかという予想であった。

しかし、十月七日の最後の連絡では七三名に達した。

その晩、清水市在住の桜田君より案内状をいただいたが、今年は仕事の都合で行けないが来年は行きたいからぜひ連絡してほしいという電話があった。

いっぽう、中村副会長の方では当日手渡す出席者一覧表や会の進行表作成等の仕事をしている。

京浜支部ぐらいの大世帯になると事前準備も結構あるものだ。

年一回の会合であるが、誰か三四人動き回らないと会合は開かれないわけだ。

こんな内輪の話は書きたくなかったが、皆さんに理解してほしいと思ったので、今回は特に掲載することにした。

(総会)

恒例の京浜錦浦会が去る十月八日(金)午後六時四十五分から東横沿線の松籟荘で行なわれた。

当日、勤務先の方に、追加出席取消等の電話が何回かかかってきたが八〇名は突破するだろうと思いながら渋谷の勤務先を出た。会場に到着したのは午後六時ごろであった。既に相当数の人が見えていた。いつもより出足がよいと思った。

六時四十五分まで待ち八四名という京浜支部初まって以来の最高の出席者があって近来にない盛会のうちに午後十時散会した。会は筒井理事の司会により進められ江崎支部長の挨拶により始まった

谷川新校長の挨拶、中村副会長の本年度の同窓会報告、浅野理事の京浜支部報告、谷口副会長の最近の同窓会本部の諸報告と続き、小山全船協会長の海技協会等についての近況説明、和田衆議院議員の最近諸外国を視察して帰られた感想等がのべられた。

続いて、懇談会に移り、最年長者の小林忠次氏(大正二年E卒八〇才)の音頭により乾杯が行なわれた。

また永年にわたり同窓会のために尽力され不幸病魔に倒れ昨年夏亡くなられた前副会長三輪忠平氏の未亡人が当日わざわざ会場にこられ会員一同に挨拶された。

その上鳥羽の名物であるケース入りのウニ六〇箇をいただいた。(数が不足のため若い人には遠慮してもらい出席者に配付した。)

なお、出席者全員の記念撮影なども行ない、校歌や寮歌を合唱し盛会のうちに来年の再会を約して散会した。

今回の会合の感想をのべて見ると若手の辻さんや横浜の岩田さんがあちこちに電話してくれた。戦後卒の人でも既に昭和三〇年席上課程卒の人の場合でも、三十五才と中年に達し、中年層が大勢出席した。

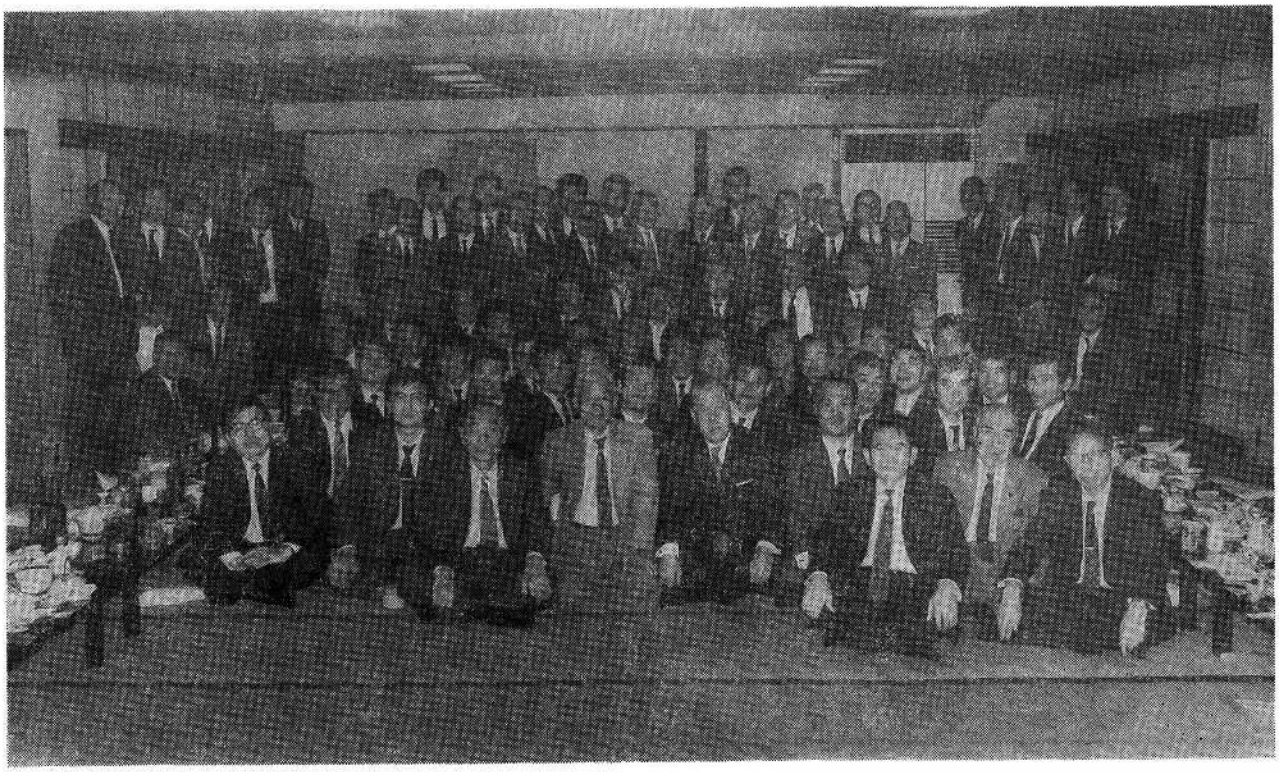
最近、京浜地区に転勤してきた新顔が相当いた。会場の選定がよかった。秋の長雨にもかかわらず当日だけ晴天になった。等々良い条件が重なって八四名という出席者を記録した。

しかも、本部の総会より人数が多く小山さん、和田さんという船員界の超大物のほか、母校々長、谷口副会長等の出席があって本部の総会を開いているような気がした。

本年度の同窓会会報が丁度刷り上って配付されたこともタイミングとしてよかった。(会報は五校のうちで鳥羽だけが発行しているということである。)

八四名の内訳は四割が戦前派六割が戦後派となった。なお、感想であるが、和田さんという後継者ができたが、小山さんにはもう十年は大御所として生きていてほしい。

何度会っても感ずることであるが、百年に一人しか出現しない人だと思う。



小山さんの特徴は高令にもかかわらず過去の事は余りいわない。これからどうするかの多い人である。まだ一度も出席していない人は一生に一度ぐらい話を聞いておいたらどうだろう。大いに得る所があると思うのだが。

なお、旧教官では西部、勝川の両氏が出席された。久保理事は、事前準備でいろいろ動いてもらったが、会社の用務で突然欠席となり残念であった。

しかし、今回は出席者が八〇名を突破したので非常な盛会となり働いた甲斐があったので少々の疲れも吹っ飛んでしまった。

出席者氏名（順不同・敬称略）

小林忠次、江崎広治、高山弥郎三浅井幸次郎、佐藤信次、奥平麟太郎、小山亮、家里琢夫、小山定夫田代精一、坂口才五郎、中村栄三、上村一雄、小島明正、倉橋善正吉原保行、浜崎健三、望月武夫、筒井堅一、和田春生、松岡秀次、近藤辰郎、久保四郎平、城山孝夫山口智男、諏訪致道、浅野和昭、谷水長生、石田輝昭、藤崎金太郎林幸雄、川村喜一郎、門倉毅、島上健、久貝浩、林幹夫、浜口猛、宇田川友也、千々波天信、川田年秀、島村秀夫、下浦康孝、中島恭次、小林巽、増田信、岩田和雄、斉藤暢雄、塚越健一、野田芳樹、三沢茂明、山口義治、林郁男、萩原敏、酒井保夫、水戸岡公一、山田博、早川正樹、真鍋重治、河原幸男、辻裕、渡部上、高木栄一、原功一、稲葉靖夫、田中誠、谷川雅俊、村越文男、三上信雄、須貝良治、河西豊彦、川村賢二、幸田守弘、元島次郎、都筑隆夫、山下裕彦、渡辺三良、矢内博善、長内秀文、横山俊之、軽部欣四郎

（招待者）

谷川英一、勝川利一郎、西部徹一谷口英雄

なお左記七名の方よりご寄付として合計金七万九千円をいただきました。ご協力厚く御礼申し上げます。

小山亮、江崎広治、久保四郎平望月武夫、勝川利一郎、近藤辰郎同窓会本部。

以上

（昭和四十六年十一月十六日A記）

和田春生議員の後援会発足

船員界が生んだ唯一人の衆議院議員和田春生氏の東京地区後援会創立総会が去る三月十五日午後四時に東京中央区八重洲の海洋会の本部ホールで約一〇〇名の出席者を得て盛大に行なわれた。

同後援会は、東京地区に居住するか、または、勤務先を有する船員出身者、主として海洋会、全船協の会員の有志が超党派、超労使的な立場から、和田議員が国会で永続して活動してもらうためにバックアップしようという趣旨で生れたものである。（後援会々長小山亮、会員約二〇〇名）

挨拶に立った和田氏より、最近の国会報告と引き続いて議員としての職責を全うしたい旨の力強い言葉がのべられ、集まった会員から盛んな拍手をうけ、懇親会にうつり五時三十分散会した。

なお、鳥羽関係では、江崎広治氏が副会長に中村栄三氏が理事として役員に加わっている。

後援会に入会希望の方は左記に申し込み下さい。

東京都千代田区丸の内一の八の二（第一鉄鋼ビル）

全日本船舶職員協会気付

東京地区和田春生後援会

会費　年間五〇〇円

（K・A記）

後援会結成趣意書

「船員出身者を国会へ」それはわれわれの長い間の願望でありました。

ご承知の通り過ぐる昭和四十四年十二月の総選挙においてその夢が見事実現し、衆議院議員〝和田春生〟が誕生したことは、まことに喜ばしい次第であります。

和田春生君は、新人議員ながら国会内外における政治活動はまことにめざましく、その人格識見とも第一級の政治家との評価を固めつつあります。

さて、海運界ならびに船員界は国内的にも国際的にも緊急を要する問題が山積しており、しかも現在の情勢からして問題は一段と深刻な様相を呈しております。

私共はこうした問題の解決には常に国会に対する強力な働きかけが不可欠であることを痛感するものであります。

かかる折、和田春生君が国会で活発に活躍されていることは真に幸運というべきであります。

われわれは、ここに同君を心から後援し、同君の国会活動の永続のためにいささかでも役立ちたいと念願するものであります。

以上の趣旨により、東京地区和田春生後援会の設立を提唱し、広くご賛同を求める次第であります

昭和四十七年三月一日

発起人一同

東京地区和田春生後援会々則

第一条（名称）

この会は、東京地区和田春生後援会と称する。

第二条（所在地）

この会の事務所は、東京都内において置く。

第三条（目的）

この会は、和田春生君の政治活動を援助することを目的とする。

第四条（活動）

この会は、前条の目的を達成するため必要な活動を行なう。

（二）この会の活動を円滑にするために各種の専門部会をおくことができる。

第五条（会員）

この会は、東京地区に住居または勤務先を有する船員出身者及びこの会の目的に賛同する個人をもって組織する。

第六条（会費）
この会の会費は別に定める。
第七条（役員）
この会に次の役員をおく。
会長　一名
副会長　若干名
理事　若干名
監事　二名
幹事長　二名
幹事　若干名
（二）役員の任期は二年とする。ただし再任を妨げない。
第八条（相談役・顧問）
この会に相談役及び顧問をおくことができる。
（二）相談役及び顧問は、会長の諮問に応じ、又は会議に出席して意見を述べることができる。
第九条（会議）
この会は、毎年六月に定例総会を開催し、この会則に定める事項、予算、決算、役員の選任、その他特に重要な事項を審議決定する。
（二）役員会、幹事会は必要の都度開催する。
（三）総会及び役員会は会長が召集し、幹事会は幹事長が召集する。
第十条（会計）
この会の経費は会費及び寄附金をもってまかなう。
（二）この会の会計年度は、その年の四月一日にはじまり翌年三月三十一日に終る。
第十一条（会則の変更）
この会の会則の変更は総会の議により決定する。

和田衆議院議員の応援について

―三多摩地区居住者紹介運動―

東京地区和田春生後援会

約三年前の昭和四十四年十二月の総選挙において「船員」出身の和田春生衆議院議員が誕生しました。既にご承知の通り新人議員ながら国会の内外において外交、経済、交通、物価、公害厚生等の諸問題について幅広い活動を続けておられます。

去る六月には、約八年近く続いた佐藤内閣は退陣し、近く総選挙が予想されます。

東京七区は定員五名で、現在自民二、民社一、公明一、共産一の割合で議席がしめられていますが今回は非常な激戦が予想され、少なくも二〇万票以上とらないと当選は無理と想われています。

同君の政治活動を援けるために再選を期して、選挙区である三多摩地区に居住される有権者の紹介運動を行なうことになりました。

つきましては、左記区域内に居住されている知人、友人、並びにご親せき等のご紹介をお願い致します。

選挙区市町村一覧表

衆議院選挙区東京第七区（都下三多摩地区全域）

武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、府中市、小金井市、国分寺市国立市、保谷市、田無市、東久留米市、小平市、武蔵村山市、東村山市、清瀬市、日野市、東大和市立川市、昭島市、青梅市、福生市八王子市、町田市、稲城市、多摩市、秋川市、西多摩郡、（五日市町羽村町、瑞穂町、日の出村、桧原村）

連絡先、東京都千代田区丸ノ内一丁目八番二号第一鉄鋼ビル九階社団法人全日本船舶職員協会気付

電話（二一六）五四五五番

東京地区和田春生後援会事務局

全日本船舶職員協会四十七年度定期総会開催さる

全日本船舶職員協会（会員総数九、一四八名）の本年度定期総会が六月三日（土）午後一時から神戸市、神戸海員会館で開かれ事業報告及び決算、事業計画、予算案を原案通り承認、役員を改選し、盛会のうちに午後五時散会した。

今回の特色は、昭和二十九年以来十八年間会長の職にあって、大きな業績を残ししかも、会の象徴的存在であった小山亮氏が措しまれながら引退し、杉本恒記氏（広島出身）が新たに会長に就任した。

なお小山前会長には相談役として引き続き会のため協力していただくことになった。

当日は、国会開催中で多忙な中を民社党の和田春生氏が出席され最近の政情等が報告された。

なお、鳥羽の卒業生で全船協に未加入の方は左記に申し込み下さい。

神戸市生田区東町一一六の一
全日本船舶職員協会神戸支部
東京都千代田区丸の内一の八の二第一鉄鋼ビル
全日本船舶職員協会
会費　年間二、〇〇〇円（入会金二〇〇円）
（四七、六、二二京浜支部）

名古屋

校舎竣工記念式典に列して

名鳥会会長　加藤重三郎

五月十二日に、母校の校舎竣工記念式典に招かれる栄を受けて私は出席した。

高専昇格以来、校舎を始めとして諸設備の設置ならびに、建設は着々とはかどり予定通りの竣工を見て、今回当局を始めとして多数の来賓の臨席下に、盛大かつ厳粛なる式典及び祝宴が催された。

校内の施設を参観するに、なお増設拡張を要する所があると思われるも、名実ともに世界のトップとなった日本海運の船舶を運航する職員を教育養成するに、ふさわしい設備と言わなければならない

午前十時に開式されて、谷川校長の挨拶の辞に続いて、工事関係者の工事報告等があり、文部大臣（代読）の祝辞等を始めとして各位の祝辞は何れも母校の明治初年以来の歴史の歩みにふれて、その感を深くするものであった。また式典に参列した学生諸君の挙措、態度等も、数年前とは見違へるように改善されて、まことに心強く感ずるものがあって、今日の盛典を地下にて見ていられた校祖近藤翁も満足せられる所があったと思われた。

午後一時から小湧園の大ホールで催された祝賀パーティには、国会開会中で多忙の身でありながら態々参会された和田代議士（同窓）等の挨拶もあって、会場は近鉄の奥志摩へ乗入れとともに、急速に発展されつつある鳥羽港ならびに志摩の風光を眼下に賞しつつ雰囲気は、喜びと快談に尽きるところがなかった。

第二次大戦を過して四分の一世紀世界は今大きな波に乗ったように揺れている。

ニクソン米大統領の訪中、訪ソに依る世界の潮流の変化は、大きた波紋を岸辺に、おし寄せているまた南北朝鮮の話し合では明日への夜明けを思わせる。沖縄返還を実現して佐藤首相の退陣により田中新内閣は、円切り上げによる国内の不況を克服して、日本列島改造論を提唱して、公害のない新しい日本の創造を目論でいる。

九十日にわたる海員組合のストライキは漸く妥結して、全船舶は動きだした。

単に賃上げを題目としただけでなく、船員の人間性を標望した今回の長期ストは、船会社を始め産業界に、大きな影響をもたらせたようだ。

戦前、戦中、戦後の船長職務二十五年を含んで海上勤務四十年を私は、新聞に毎日のるこの記事は興味深く見ていた。

私は、昭和二十八年より十九年間住み馴れた名古屋の住居を売り払って、この四月に三重県菰野町の大羽根園に新居を建てて転居した。旧住所は名古屋の東部丘陵地帯で、住いとしては、まことに好適の地で便利もよく、季節には鶯も庭先にきたのであるが、最近は附近一帯東部は急速に開発されて一日一万数千台の車が家の周辺の道路を通るようになったので、思切って前記の新住所を求めて転居したのである。

大羽根園は、鈴鹿国定公園の湯の山温泉の登山口の山林にあり、御在所岳の山容を朝夕軒先に眺めることが出来る。

三交不動産が数年前に別荘地宅地として開発したところで、千余の区画の中に既に四百余の住宅が建っている。休猟区指定になっているこの地区は、朝の五時の黎明とともに、多数の小鳥が庭先の松林にきてさえずる。

朝七時の近鉄電車で、八時半に名古屋の本社へ通勤して、社員の出勤とともに社務にたずさわれる私は、ながの年の海上勤務で鍛えた健康によるものであると思っている。

四日市で近鉄湯の山線に乗替へて、大羽根園に行くのであるが、車中で重い登山リックサックを背負って、鈴鹿連峰を登破露営する青年男女と、よく乗り合せていろいろ話をすることがある。これ等の発溌たる若者に接するのに深い興味を覚へるのである。

私達が、あの景勝の地である鳥羽で蛍雪の巧を積んだのは、五十年も昔で今とは時代も感覚も変っているが、しかし国旗の日の丸は変っていない。今日も校舎屋上に高く翻っている。

この秋には、高専第一回卒業生五一名が巣立っていくという。まことによろこばしいことである。

新校舎、校域が完成されて、美しく張られた芝生の上を歩きながら、私は過ぎし若い頃のこの地の想い出にふけった。（完）

（住所）三重県三重郡菰野町
大羽根園青葉町六の五
（昭和四七・五・一七稿）

学校だより

今年は集中豪雨や冷害などの気象災害が各地でおこりましたが、皆さんのところは被害ございませんでしたでしょうか。御見舞申上げます。さて今回のお知らせは

◇五年生の修了式

九月十六日に練習船および工場実習に出発する五年生の席上課程修了式が九月十日行なわれました来年九月末の卒業生までの一ヶ年間実習に励むことになります。

◇卒業研究発表会

九月八・九日の両日、五年生の卒業研究の発表会が航機に分れて行なわれました。半年間担当教官について研究した結果が発表され教官の活発な質問があり盛況でした。

◇就職説明会

恒例の船会社の就職説明会が九月三日から四日間行なわれました来年九月に卒業する五年生のために行なわれたもので、船会社の実態を全く知らない学生たちだけに就職というより会社の説明を聞く程度の受け取りかたが強かったようです。

◇講演会

水路部発足百周年を記念して、九月十六日海上保安庁から山下行成第四管区海上保安本部水路部長が来校され水路業務についての講演がありました。

◇全船協の説明会

商船高専の学生に対して全日本船舶職員協会についての認識を新ためその加入を促す意味もあって九月六日本部から高橋武衛門先輩が派遣され、航・機五年生に説明されました。谷口同窓会副会長、押尾神戸支部長、武内作夫理事および落合が列席しました。

◇文部省の視察

商船高専における施設および学寮の実態調査が九月二十二日・二十三日の両日行なわれました。

小谷前校長、庄司教授（東船大らが委員として来校され、担当者が応対しました。

◇教官の海外出張

一般教科主任　黒田教官
「欧州における数学教育現代化の事情視察」のため、九月十八日から十月六日の間、オランダ、イギリス、フランス、西ドイツ、イタリア、ベルギー等の諸国へ出張されました。

航海学科　落合教官
「遠隔探査研究計画の企画および実施に関する国際連合パネル会合について、ブラジル国サンパウロ市において国連平和利用委員会技術委員会のシンポジュームが開かれるので、科学技術庁の依頼によって特に日本代表の一員として同委員会におけるパネリストとして発表のため招請されることとなり十一月二十六日から十二月十七日の間米国とブラジル国へ出張しました。

◇海学祭

恒例の本校海学祭が、秋晴れの十月三十日～三十一日の両日華々しく開催され、土、日を利用して趣好をこらしての諸行事に、三十一日の日曜日は、特に校内を一般に開放し終日盛況でありました。

練習船鳥羽丸（三〇〇トン型）の見学と共に海事思想の普及に寄与するところがあったと思われます。

◇会計実地監査

十一月十七日文部省会計課より幸田事務官外二名が検査官として来校され、本校の会計関係全般にわたる実地監査を実施されました

◇航海訓練所練習船「北斗丸」鳥羽寄港

十一月十八日鳥羽港へ寄港に先だち、十七日佐野所長等各課長幹部職員が本校を訪れ、谷川校長等と種々懇談されました。また谷川校長も十八日北斗丸を正式訪問し乗船中の本校学生一同を親しく激励されました。

◇特別講演会

十一月十八日午後二時から神戸商船大学吉原教授を迎えて「孤独と連帯」と題する特別講演会が本校体育館で開催され全学生の共感を喚起し非常な感銘を与えて盛会裡に終了しました。

◇海外技術協力事業

十一月十九日運輸省船員局教育課中島専門官引卒の下に、海外技術協力事業の一つとして同事業団青木研修監理員の通訳で船員教育行政コースの四名、（フィリピン二名インドネシア一名、韓国一名）が本校を訪れ、谷川校長村野教務主事、山門航海学科主任等関係教官と終日船員教育について懇談し種々意見の交換があり、一行は得るところが多かった模様でありました。

◇中部地区海洋少年団指導者講習会

十一月二十日二十一日の両日約二十五名参加の上、本校の施設を利用して講習会が開催され、二十一

日午前九時から村野教務主事の講演があり、校内および練習船鳥羽丸を見学の後、カッターの操法訓練を実施し、午後は全体討議をもって誠に有意義に終了しました。

◇海事ゼミナール開催

四十七年の夏休みを利用して愛知、三重、岐阜、静岡の各県の中学校の進学指導の先生方約三十名を対象に、本校の施設を利用して第五回海事ゼミナールを実施しました。

◇京浜地区学生寮

機関科学生の学外工場実習期間中の学生寮について、かねてから交通に便なところを物色中のところ、幸いにして関東財務局横浜財務部の協力を得て、横浜市神奈川区亀住町に手頃な敷地を確保することができて、文部省教育施設部工営課の直轄工事として、完成しました。

京浜急行線神奈川新町駅から徒歩五分のところに在って、特急も停車しますので学生にとって非常に便利と思われます。RC二階建で十六名収容可能です。

◇村野教務主事退官

昭和三十六年四月鳥羽商船高等学校長として着任され、鳥羽商船高等専門学校誕生と共に教務主事として激動期の学校の発展に尽力して頂きました村野先生が三月三十一日付で定年退官されました。商船専門学校の生みの親ともいう可き先生の退官は、まさに老兵は去るのみという感がいたしかねないものがあります。

退官後は郷里岡山にお帰りになって一切の仕事に従事されないとのお話です。悠々自適のマンション生活をエンジョイされると伺っております。先生の新住所は下記のとおりです。

岡山市内山下一丁目三番十五号
エヌ・ケー内山下コーター三〇三室

◇入学式

本年度の入学式は四月十五日に行なわれました。航海科三九名、機関科七七名の新入生が元気一杯入校して参りました。本校出身者の二世が二名も入学しましたがまことに喜ばしい限りです。こうした傾向がますます強くなるよう祈っております。

◇武道場の完成

体育館の正面に新しく武道場が完成しました。面積は三一六平方メートルで現在のところ剣道場として使用しています。三月四日に行なわれました道場開きには、なぎなたの吉田および森山先生による模範演技などが披露されました

◇テニスコートの増設

テニスコート二面が増設され合計三面となりました。クラブ活動も一層さかんになると思われます

◇竣工式

商船高等専門学校としての一応の施設が整備されましたので、五月十二日に竣工式が行なわれました。来賓、同窓生、父兄など約三〇〇名をお招きして体育館で竣工式、祝賀パーティは小湧園で行なわれました。当日はクラブ員による君が代、校歌のブラスバンド演奏のほか、伊勢音頭が祝演として披露されました。

◇文化講演会

五月十八日鳥羽市教育長の楠井栄八郎先生をお招きして文化講演会が開催されました。演題は「鳥羽市の文学遺跡について」

◇東海カッターレース

五月七日池の浦において東海カッターレースが開催されました。本年度から東海地区にある海に関係のある学校が参加して、春と秋の二回レースを行なうことになりその第一回レースが本校で行なわれたのです。同窓会から優勝カップを寄贈して頂きました。残念ながら本校クルーは第二位でしたので秋にはカップを取りもどすべく夏休み中も合宿して練習に励んでいます。

◇筆者の渡米

七月三十一日から八月十一日までアメリカ、インディアナ州ラファイエットにあるパーデュウ大学で開催される「遠隔探査に関するセミナー」に出張を命ぜられ参加しました。帰途サンタバーバラ（鳥羽の姉妹都市）にある商船学校を見学しました。同窓会からは多額の餞別を頂きまして有難うございました。

（落合記）

M43N 川原乙松氏の引退挨拶

拝啓　新緑の候貴会益々御隆昌大慶に存じ上げます。私儀此度齢八十才を算え後進に道を開き水先業務から引退することになりました。今後は水先人会の顧問となり日本海曳船株式会社の社長として新潟港の発展のため微力を捧げるとともに私個人経営の保育園の園児相手に余生を楽しく送りたいと存じます。

昭和四年四月新潟県港務嘱託新潟港初代水先人として奉職、昭和二十四年新潟港が水先区に編入されると共に免許水先人となり今日にいたる四十三年間無事故に重責を果たすことを得、港の管轄官庁が内務省、新潟県、運輸省と変りましても常に開発改修に参与を許されました、一地方港から国際貿易港特定重要港湾と急速に進展する港を眺めつつ楽しい日々を送ることが出来ましたのも偏に諸賢の御愛顧御指導のお陰と感謝いたしております。

在職中運輸大臣、厚生大臣、新潟県知事、新潟市長の表彰外数々の表彰を受け、黄綬褒章、勲四等瑞宝章を賜わる等身に余る光栄に浴しました。

この度引退するに当り、新潟市長始め港湾関連諸団体の発意により港の緑地帯に私の胸像も建立し功績を顕彰することとなり九月中旬除幕式を行なうこととなりました。全国においても異例のことであり責任の重大を痛感しています

私は、新聞報道に、ラジオ、テレビ放送に出る機会が非常に多いのでありますがその都度私を紹介するにあたりまず鳥羽商船学校出身と披露してくれます。母校の名を聞くたびに一種の誇りを覚えるのであります。

水先業務は引退致しましたが、これから第二の人世にはいり母校の名誉をきずつけないよう一層努力する覚悟であります。近況報告いたしますと共に同窓諸賢の健闘を御祈り申し上げます。

昭和四七・六月　川原　乙松

第一回商船高専卒業生に告ぐ

ご卒業の皆さんお芽出とうございます。われわれ同窓会員は学校創立以来三千名を超えていますが全員が卒業と同時に入会し、本会の目的達成のために協力しておりますが今回新らしく五十数名の皆さんを正会員として迎へ入れることになりまして嬉しく存じます。15頁に本会々則を掲載しておきますからご覧の上ご賛同下さい。

建物配置図

1 本館	14 艇庫
2 校舎	15 体育器具庫
3 学生控室	16 寄宿舎（A）
4 体育館	17 〃 （B）
5 武道場	18 食堂
6 実習工場（A）	19 浴室・ボイラー室
7 〃 （B）	20 ボイラー室
8 講堂	21 寄宿舎（北）
9 ボイラー室	22 〃 （南）
10 守衛室	23 食堂
11 車庫	24 図書館（S.47計画）
12 倉庫	25 寄宿舎（ 〃 ）
13 旧艇庫	

1．土地（学校敷地）総面積	102,454 m²
2．建物総面積	10,684 / 22,460 m²

昭六同級会 第二回目を終えて

思い出も多い学窓をあとに焼飯坂を下ったのが昭和六年花の便りも近い春三月実習に散って三年後全学修了の受験に帰校したが全員顔を合す事もなく各職を得て立ち去ったその後はまったく再会の機もなく不景気な時代から戦中戦後と苦労の多い年月だった。その間に戦場に散った友も半数を数えております。

何時しか過ぎ去った四〇年定年退職を間近に控えて自分の周辺を見渡す様な年令となり、同級の友を懐しく思い浮べ居る時に同級会を催すから参加する様の便りをいただき連絡やら会場の手配の労を中村君に感謝しつつ名湯で名の高い神原温泉の白雲荘へ。

在学時代の恩師富岡、松永の両先生をお迎えして集った友は京浜方面から中村平光中京地区から三浦柳川大西、阪神からは浜口、中山、藤原の総数一〇名。お迎えした両先生は以前に変らないお元気な御様子、同級の友は顔には苦労四〇年の深い皺をきざみ頭にはそれぞれ白い物をいただき、又美しく禿げ上ったり、昔のよか男はどこえやら長い苦労の連続に耐え抜いて来た顔、このように変った姿で街で行き合っても誰だか解らないだろうと一同大笑い、とにかく集ってよかったんだと手を取り合って喜んだものでした。これが第一回目の昭和四五年九月、第二回目は昭和四七年二月十九日、二〇日の両日会場を南紀方面に求めて催す事となり全員集る事を願って案内状を送ったものでしたが集まった友は中村、中山、田畑、平光深口に私の六名のみ残念だったが不参加の友からは元気だが都合がつかず一同に宣敷くの近況を得たのだが次回に参加する様念ずる次第。

寒中での催しで心配していた天候は先日までの雨と寒さはどこへやら春を思わす暖い日差し、雲一つない晴れ上った両日、会場は勝浦でも一流のホテル「ながやま」太平洋に面した大浴場の豊かにつかり荒波の音を近くに夕辺の宴では山海の珍味と鉄板焼に舌づつみを打ち昔の話に近況を語る内に長い冬の夜も短かく感ずる一夜でした。明けて二〇日は九時過ぎホテルをあとに二台の車で町から山路へ途中で早咲きの桜花に迎えられつつ一路那智の滝へ。自然林に覆れた山に白布でも垂れた様な滝、百米を越す上空から水又水の轟音と水煙りの壮大さ、かつて海上から見た滝を思い出しながらあくことのない眺めに別れを告げてすぐそばの那智大社に詣でました。

次の大地まで約三〇分鯨博物館では古代補鯨の模型と使用された道具類を見学又鯨の雌雄の象徴のあまりにも大型なのに一同口をあんぐりと言った処。

串本までは移り変って行く南紀特有の美しい海岸をドライブで楽しみ、車を降りては自然が作った芸術品の橋杭岩、その名の通り大小の岩が柱を一列に打ち込んだ様な見事さに目を見張った物でした。

最後の地となる潮岬では沖を行く大小の数多い船を眺めつゝ昼食を取る一時を過し、又灯台に登っては大変御世話になったと一同感謝の意を表した事でした。

その足で海中展望台へ途中、平光君は急用により一同に別れて帰路に、展望台では未知の海底に胸おどる物を感じつゝ降りました。太陽の淡い光を受けて水中を行く大小の美しい魚、変化に富んだ海底と植物に驚の声を上げた物でした陸では水族館へ種々の変った見たこともない魚、又魚と修学旅行を思い出す様な楽しい見物と語らいの内に時間の過ぎるのは早いもので何時しか太陽は西に傾き別れの時間となっておりました。

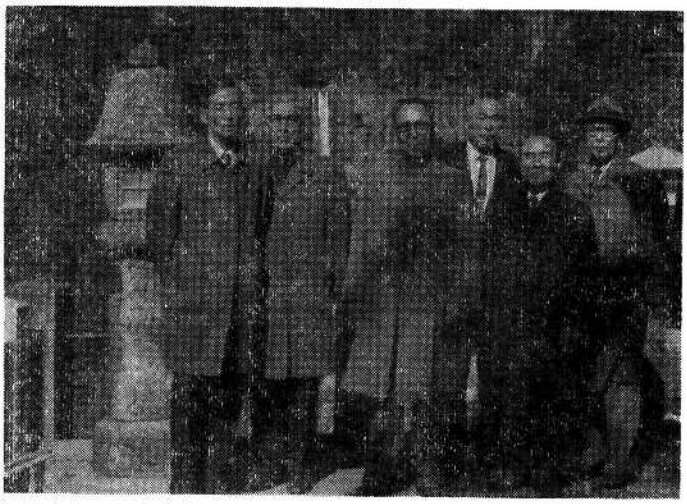
串本駅ではお互いの健康と再会の近い事を誓ってつきぬ名残りを措みつゝ西と東の帰路に着きました。

俺れ、お前の呼び合いの出来る遠慮のいらない同級仲間このような機会をなぜもっと早く作らなかったかと残念に思われる。でもこのような機を持たない同窓の方も多いと聞く、だが後れながらも我々は漸く二回目を終え恵まれた方ではないかと思う。

南紀での美しい海岸のドライブと諸所の見学と見物又友の元気な姿を胸の内深く何時までも生き続け楽しい思い出となる事を祈って報告を終りたいと思います。

昭和四七・三・二五日

S六E　藤原



向って右から
藤原圭二(E)平光五一(N)田畑秋一(N)中山正二(N)
中村栄三(N)浜口光男(N)於那智山青岸渡寺

「同窓会の会費について思う」を読んで

昨年の同窓会報に会費の納入率のことについてX氏の投稿がのっていた。共鳴する点があるので一言書いて見たくなった。

たしかに学校を卒業して自立するようになれば、大部分の人は学校とか同窓会の世話になるというような事はない。同窓会と断絶してしまっても生活は維持できる。

しかし、同窓会というようなものは、生活に関係がある、ないというような性格のものであろうか会員相互の親睦と常に母校と同窓会員の連絡を密にし、母校の繁栄を図るというようなことが目的ではないでしょうか。

会報や名簿が送られてきても、会費は納入しないで知らん顔の半平衛をきめ込んでしまうとは余りにも情けない態度ではないだろうか。年間一、〇〇〇円程度の会費は納入できないことはないだろう会費の納入率の向上に協力しよう。

(Y生記)

鳥羽商船同窓会会則

第一章　総　則

第一条　本会は鳥羽商船同窓会と称し、本部を鳥羽商船高等専門学校内に置く。また神戸・東京・名古屋・四日市・大阪・函館に支部を置き、その他理事会の議を経て必要な地に支部を置くことができる。

第二条　本会は鳥羽商船学校・鳥羽商船高等学校並びに鳥羽商船高等専門学校出身者を以て組織する。

第三条　本会は次の目的を以て必要な事業を行なう。

1　会員相互の親睦並びに人格の向上を図る。

2　常に母校と同窓会員の連絡を密にし、母校の繁栄を図り引いては吾国海運の発展に寄与する。

第二章　会　員

第四条　会員を次の如く定める。

1　正会員は母校を卒業した者

2　名誉会員は特別な功労あり理事会の議を経て推薦された者

3　特別会員は母校を中退した者で理事会の議を経て推薦された者。

4　準会員在校生。

5　賛助会員母校在職の現職員

第五条　会員は次の事由に依り資格を失う。

1　死亡

2　除名　著しく会員の名誉並びに利益を毀損すべき言動ありと認め理事会において除名が決議された者。

第三章　機　関

第六条　本会に次の役員を置く。

1　会長一名

2　副会長三名以内

3　理事三十名以内とし、理事以外の者が支部長に選出された場合は、その者は理事となるものとする。

4　会計監査一名

5　理事会の議を経て顧問または相談役若干名を置くことができる。

第七条　役員の職務

1　会長　本会を代表し、会務を統轄する。

2　副会長　会長を補佐し、会長事故ある場合は会務を代行する。

3　理事　会の主要事項を審議遂行する。

4　会計監査　会の会計監査を行なう。

第八条　本会役員の選出については次の通り行なう。

1　会長　理事の互選

2　副会長　理事の互選

3　理事　会員の互選

4　会計監査　理事の中から会長が指名する。

第九条　役員の任期は二年とし再選を妨げない。

第四章　理　事　会

第十条　理事会は会長が必要と認めた場合、これを招集する。

第十一条　理事会は他の条項に規定あるものの外、次の事項を審議決定する。

1　経費の予算並びに決算に関すること。

2　本会の維持運営に関すること。

3　事業の企画実施に関すること。

4　財産の保管に関すること。

5　総会において委任を受けた事項及び総会を招集する暇なく早急に実施を要する事項。

6　その他、必要と認めた事項

第五章　総　会

第十二条　総会は定期総会と臨時総会とする。

1　定期総会は毎年一回（適当な時期）会長これを招集する

2　その他理事会において必要と認めた時、臨時総会を招集することができる。なお全会員の十分の一以上が会議の目的を示し要求ある場合、一カ月以内に臨時総会を招集しなければならない。

第十三条　総会は正会員の出席総数三十名以上たることを要し、決議権の行使は他の出席正会員に委任することができる。

第十四条　総会の決議は賛否過半数を以て決定する。同数の場合は議長が採決する。

第十五条　財産の処分、その他重要な事項を附議する場合は少なくとも出席者の三分の二以上の同意を要する。

第十六条　総会の議長は会長がこれに当り、会長事故ある場合は副会長がこれに代る。

第十七条　総会においては次の書類を提示し、承認を求めること

1　財産目録

2　収支決算報告書

3　会務報告

第十八条　総会においては議事録を作成し、出席者の氏名員数を記録すること。

第六章　会　計

第十九条　本会の維持運営は入会金、会費及び寄付金を以てこれに当てる。

1　入会金　金額は別に定める。

2　会費　金額は別に定める。

第二十条　入会金・会費並びに寄付金は一般会計とし、その保管については理事会の議を経て安全確実な金融機関へ預金する。

第二十一条　経費の支出に当っては理事会の承認を得るものとする。

第二十二条　会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとし決算を行なうこと。

附　則

第一条　本会則の改正は総会の決議を要する。

第二条　本会会務処理に必要な規定は理事会の議を経て会長これを定める。

第三条　本会則は昭和四十年六月十三日より実施する。（昭和四十四年十月会則一部改正）

入会金及び会費

附則第二条により決定された入会金及び会費は現在次の通りである。

1　入会金　五百円

2　会費　年額一千円

3　終身会費　五千円（満五十五才以上で会費を完納しているもの）

次の諸氏は逝去された旨通知がありました。
謹んで敬弔の意を表します。

（昭和四十六年九月一日より四十七年七月末まで）

編集後記

本年度の原稿締切は八月末日としてありましたが、本年は第一回高専の卒業式が九月下旬に挙行されるので、新卒業生に本会の目的を理解してもらうため卒業式に間に合うよう発行したいと思いまして七月末に締切りました。

本年度からの原稿は七月末日締切といたしますから奮って御投稿下さい。

×　×　×

本年度は母校の校舎竣工記念式が挙行されましたので一般会計の中から百万円以上を支出しましたこの次は百周年祭が九年先に迫っているので今からその準備を始めなければなりません。百周年ともなれば全国でも数が少ないし本会の面目にかけても大々的な事業を予定したいと思います。それには多額の資金を要するから来年の総会に図って寄付金募集をしたいと思いますから、どうか御協力下さい。

×　×　×

会費の集りが余りよくありません。昭和五十年以後の分まで完納しておられる協力的な方も十数名ありますが、一回も納入されない方が行方不明者も含めて六〇〇名以上あります。お互いに本会発展のため未納の方をご存知でしたら御勧誘下さるようお願いします

好評発売中

〝海の新道交法〟成る
「海上交通安全法の解説」発刊ご案内

海上保安庁監修

B6判　約200頁　定価 700円（送料 110円）

わが国の沿岸水域は、多種多様の船舶で輻輳しており、世界でも有数の船舶交通のラッシュ海域となっています。

中でも京浜、中京、阪神といった大工業地帯を控えた東京湾、伊勢湾、瀬戸内海では、原油タンカーや危険物輸送船の往来も多く、海上交通ラッシュに起因する大災害の発生が懸念されています。

これら海域の海上交通の安全を確保し、災害を予防するために長年懸案だった「海上交通安全法」が制定されました。

同法は、去る7月3日公布され、昭和48年7月から施行される予定ですが、3海域に浦賀水道航路ほか11の航路を設け、海上衝突予防法の特例となる航法を定め、また一定の船舶は航路を航行する場合に事前に予定時刻等を通報しなければならないことなどを定めています。

更に、これらの海域内で工事作業、工作物の設置を行なう場合にも海上交通の安全を図るという見地から本法による許可や届出が必要になります。

このように海上交通安全法は、これらの海域での海上交通の新ルールを定めたものであり、海運関係者はもとより海上作業を行なう方々をはじめ海に関係あるすべての方々が是非ともその内容を熟知しておかなければならない法律であります。

本書は、この法律の制定に参画した海上保安庁のスタッフが、政省令の内容についての考え方などにも触れながら、それぞれの条文について初めて解説を加えたものです。

船舶運航者、海運関係者、工事関係者を問わず巾広い御活用をおすすめする次第です。

代表取締役　菅　恵治（S25E）

発行所　株式会社　海交社

神戸・神戸市生田区海岸通3　海岸ビル
〒650　TEL.（078）331－2481
東京・東京都港区新橋1-23-6森ビル別館11号
〒105　TEL.（03）501－4590